

学校経営の大綱

1 はじめに

中学生という多感な時期には、心身共に劇的な変化が生じ、めざましい成長を遂げると共に、その過程では様々な課題も生じやすい。これらの課題に対して、組織力を生かし、柔軟に対応することが学校には求められている。様々な課題を解決し、健やかな成長を遂げる為の基盤となるのは、自他のよさを認め合った上で、個としても集団としても課題に正対し、より高い目標に向かって歩もうとする姿勢を育むことである。その理念の元で、教育活動を推進することが重要である。さらに、『多様性』をキーワードとした学校経営には、地域や家庭と学校との協働が不可欠である。一方で、学校は、地域になくはならない存在として、様々な面で地域貢献する存在でありたい。以上のことから、

- 生徒一人一人が、自他のよさや成長を実感できる
- 安田中学校の生徒が母校に誇りをもてる
- 安田中学校及び生徒が地域の宝だと思ってもらえる

を具現化すべく、地域と学校の‘共生・協働’を学校経営の基本方針とする。

2 目指す生徒の姿

- ①互いの存在に関心をもち、共に高まろうとする生徒
- ②自分自身を厳しく見つめ、見通しと向上心をもって行動できる生徒
- ③社会の一員としての自覚をもち、他との信頼関係を築けるよう行動する生徒
- ④集団生活におけるルールやマナーを大切に考え、行動できる生徒

3 生徒に育みたい力

① 自己肯定感・自己有用感

- 「自分にもいいところがあるんだな。」と思える気持ち（自己肯定感）
- 「他の人や社会に役立ちたい。役に立っている。」と思える気持ち（自己有用感）この2つが育まれている生徒は、他の人に対しても寛容であり、他のよさや成長・変化もまた感じとることができる。

② 自ら考え、自ら学ぶ力（学力の向上）

- 学習に関する自己分析を行いながら、自己の課題解決に向けて取り組む力
- 学びの実感、進歩の実感を感じながら、常に目標をもって学ぶ力
- 繰り返し学習することの大切さを理解し、家庭学習に継続的に取り組む力

③ 豊かな人権感覚

- 差別や偏見に苦しむ人たちの思い、様々な困難を抱えた人たちの存在を、相手の立場に立って考え、理解する力（心情の理解）
- 「どんなことが人を傷つけるのか？」を、常に心に留めて行動できる力（判断力）
- 周囲に流されることなく、差別や偏見に対して、強い決意をもって毅然とした態度・行動がとれる力（行動力）

④ 人間関係づくりにかかわる意識啓発、スキルの向上

- 個性を、他との差異としてとらえず、「主体性」や「社会性」といった基盤の上に立った個性を追求しようとする意識
- 様々な交流機会を通して多様な価値観に触れ、自己啓発を図りながら成長できる力
- 自分の考えに固執し過ぎず、柔軟な発想で価値観を問い直す力

4 高め合い、行動力のある職員集団の具現

- ① 職員全員が、生徒一人一人の特徴や変化を把握し、協働により指導できる
- ② 職員が、高い理想と強い志をもって教育活動を展開できる（職員の取組の姿そのものが、生徒を感化する学校）
- ③ 時代の変化に敏感で、先見性の高い教育活動に積極的に挑戦できる
- ④ 生徒の安全確保の為に、様々な想定をすると共に、予防的な対策がとれる
- ⑤ 生徒の自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり、活動づくりに積極的・継続的に

取り組む

- ⑥ 担当する校務分掌に関して、安易に例年の踏襲にせず、前年の評価等に基づき、自分のアイデアを盛り込んだ提案ができる

5 保護者や地域等と連携し、次世代を担う子どもたちの姿を提案できる学校づくり

- ① 保護者の不安や悩みに真剣に向き合い、解決に向けて協働できる体制づくり
- ② 地域の協力を得て、より質の高い教育活動を展開できる体制づくり
- ③ 保護者や地域の意見・要望を真摯に受け止め、改善を図ろうとする体制づくり
- ④ 学区内の小学校や、隣接する中学校との情報交換・意見交換を積極的に行い、目標とすべき未来の姿を具体的に提案できる体制づくり

6 実現のための手立て

- ① 人間関係づくりに関する教育活動の充実
 - ・自分のよさや変化を率直に評価できる機会の設定（各教科・学級活動）。
 - ・互いのよさや感心したことを紹介し合う活動（各種行事後・学期末等）。
 - ・豊かな人権感覚の醸成を目指す学習との連動
- ② 人権教育，同和教育の計画的な実施
 - ・「いじめ見逃しゼロ県民運動」と連動した人権教育強調期間の設定（6月・11月）
 - ・「社会性育成」をテーマにした授業公開と協議会の開催
- ③ 基礎的・基本的内容の確実な習得，発展的内容への意欲向上をめざした学習の実施
 - ・ゆとりをもった授業時数を確保し，授業時間内での補充学習の時間の設定
 - ・週1回終学活後20分を利用したY-Study(ver2)の実施
 - ・ホワイトボードやICTを有効活用した言語活動の充実
- ④ 生徒の家庭学習に対する意識改革とその充実
 - ・家庭学習ノートの点検とコメントの記入等による習慣化
 - ・家庭学習時間の継続的調査やその公表による意識啓発
 - ・学習方法に関する様々な啓発活動(家庭学習計画・実施の記入指導)
- ⑤ 複数担任制による開かれた学級の実現
 - ・きめ細かな生徒の様子への把握と共同・協調による対応
 - ・T・Tによる道徳や学級活動の試行
 - ・生徒の多様性に対応できる教育相談体制の確立
- ⑥ 3年間を見通した計画的なキャリア教育の実践
 - ・外部講師による講話や職場体験学習の充実
 - ・社会貢献を視座とした生き方にかかわる学習機会の設定
- ⑦ 外部講師や外部指導者の積極的な導入，職員との協働による教育活動の展開
 - ・各教科の授業，総合学習，道徳，部活動等における，地域の人たちとの交流機会の充実
- ⑧ 学校評価の進捗状況を反映させた柔軟な学校運営
 - ・各種学校評価の組織的運用と評価結果の学校運営への反映
 - ・多様な評価活動とその分析の実施
- ⑨ 学校だよりや学校ホームページ等による情報公開
 - ・毎月1回の「学校だより」の発行と定期的なHPの更新，配信メールの有効活用
- ⑩ 生徒・職員が地域に出る機会及び保護者や地域の人たちが来校する機会の拡充
 - ・地域の人たちの教育活動に対する評価を肌で感じる機会（体験活動等）の充実
 - ・教育活動に対する保護者の意識啓発
（PTAと連動して取り組む保護者の来校機会の充実，来校者延べ人数の増加）
 - ・民生・児童委員，自治会長，学校評議員との懇談会の設定
 - ・地域への貢献活動の充実（クリーン作戦・パソコン教室・福祉活動等）
 - ・「地域と学校の未来を語る会」の開催（1月）とそこでの声を参考にした実践
- ⑪ 小学校との信頼関係に基づいた連携の推進
 - ・「社会性育成」の為の諸事業の推進、授業公開による交流，学力向上のための小中連携研修の充実